㊹ 吉本新喜劇オーディション㊦

全ての力 仲間と費やした5ヵ月

先月に引き続き、吉本新喜劇オーディションとその合格への道について書かせていただきます。

【3次試験・個人面接&演技審査】

面接会場はなんばグランド花月がある吉本本社の最上階。憧れの吉本本社に入っただけで大緊張。個人面接は自己紹介と質疑応答で2次試験と変わらず。その後に台本を渡され「即興で演技をして」と指示されました。「俺が悪かった。本当に後悔している…」。どんな設定でもいけそうな内容の台本で、思いつきでパイプ椅子の脚を鉄格子に見立て、牢屋（ろうや）から仲間に謝罪する人を演じました。演技力には自信はありませんでしたが発想力がよかったのか、合格！「40人↓15人」

【4次最終試験：演劇発表会】

最終に残った15人がA班とB班に分けられました。そして、7～8人で行う30分の芝居台本を渡され、「5ケ月後にA班とB班が同じ台本で演劇発表会を実施する」と伝えられました。「5ケ月も⁉」と驚きましたが、プロのレッスンを受ける喜びが上回ります。レッスンは演劇の途中経過を披露し、班ごとに指導を受ける「演技」だけでなく「発声」「歌」「ダンス」などさまざま。

「この5ケ月で運命が変わるかも？　じっとしていられない！」。そう考え、大学は休学。そして、レッスン以外の時間は近所の海へ行き、大声でセリフを言いながら発声練習。その思いは他のメンバーも同じだったようで、自然に自主演習が始まり、公園、メンバーの家、私の大学の空き教室、貸会議室などさまざまな場所で練習をしました。後半はライバルである他の班とも合同で練習をして、同じ役同士で「どう演じるか？」を朝まで話し合うこともありました。

そして、本番。吉本の社員さん数十人の前で二つの班がそれぞれ演劇発表会を披露し、そのすぐ後に結果発表。結果は合格！「15人↓8人」

勝因は「5カ月間、お芝居だけに全ての力と時間を費やしたこと」。この経験が今まで本コラムで紹介してきた、「松竹芸能が小学校でお笑いの授業を実施する企画があると聞けば『元芸人として授業づくりに関わりたい』と社長に直接手紙を書いて、監修の立場になる（第23回）」「英語が苦手でも海外での授業に挑戦する（第22回）」「授業を実施する国にコネがなくてもとにかく連絡してみる（第41回）」「英語科学絵本を毎週1冊作成する（第27回）」などの挑戦につながっています。「忙しい」「自信がない」ではなく、「機会があれば我武者羅に挑戦」。これが夢をかなえる大きな一歩になります。

24年ぶりの新喜劇同期芸人との再会は大きな刺激になりました。夢に向かってすてきな5カ月を共に過ごしてきた同期は今でも私のライバルであり、宝物です。

京都新聞社
The Kyoto Shimbun Co.,Ltd.
©京都新聞社　無断複製・転載を禁じます